

国際社会学部

佐藤千鶴子

Chizuko Sato

国際関係コース／アフリカ

アフリカ地域研究／移民・難民研究／国際関係論



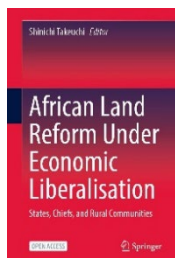
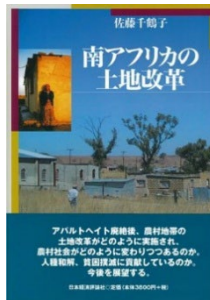
南アフリカにいる移民から送られた食品・生活雑貨
(ジンバブウェ南部の農村)

アフリカの移民・難民研究

アフリカの移民や難民というと、アフリカ大陸から地中海を越えてヨーロッパを目指す人びとを思い浮かべる人が多いかもしれませんが。けれども、国連機関が発行している国際移民統計や難民統計によれば、アフリカの移民や難民の多くは隣国を中心とするアフリカ諸国で生活したり、庇護を受けたりしています。つまり、アフリカは移民や難民を多く輩出している地域であると同時に、移民や難民を多く受け入れている地域でもあります。域内移動の多さは、移動にかかるコストなどの物理的な障害に加えて、国境を越えた地域的な経済圏がアフリカの各地で歴史的に形成されてきたことが主な理由です。さらに今日では、グローバルノースの国々が移民や難民の受入れに関して消極的になっていることも関係しています。アフリカで移民や難民が生まれる原因や国境を越えた移動を支えるネットワークの役割、移民やディアスポラからの送金の効果に加えて、アフリカ諸国による難民保護の制度や実態も重要な研究課題になっています。

研究紹介

南部アフリカを対象とする地域研究者として、主に2つの研究課題に取り組んできました。ひとつは、アパルトヘイト体制の終焉（＝民主化）に伴う南アフリカ経済社会の変容について、特に土地改革により得た農場の経営やワイン産業への参入の際に黒人が直面する困難を研究してきました。もうひとつは、南部アフリカ地域における国際移動の歴史と現在です。移動先国である南アフリカの移民・難民政策や同国で移民や難民がどのようにして生計を立てているかに関する研究から初めて、最近では、移民の出身国であるマラウイやジンバブウェの農村社会が移民を送り出すことでどのように変化してきたのかについても見えています。



担当授業

- 国際人口移動論
- 難民保護の歴史・現在・課題
- 移民・難民研究（ゼミ）

関連する分野

- 国際社会学
- 地域研究

出版物

- 『南アフリカの土地改革』（単著）
- 『移民の社会的保護：南アフリカ・モザンビーク・マラウイの制度と実態』（編著）
- 『南アフリカの経済社会変容』（共編著）
- 『African Land Reform Under Economic Liberalisation』（分担執筆）
- 『アフリカ潜在力のカレイドスコープ』（分担執筆）
- 『アフリカ女性の国際移動』（分担執筆）
- 『南アフリカを知るための60章』（分担執筆）

国際社会学部

移民・難民研究 ゼミ

どのようなゼミか

本ゼミでは、開発と人間の安全保障（ヒューマン・セキュリティ）の視点から、移民・難民研究にアプローチし、移民や難民が生まれる背景と移動先国で彼（女）らの存在が提起する問題について学び、どのような解決策がありうるのかを考えます。教員はアフリカ地域研究を専門にしていますが、アフリカに限らず、移民や難民を多数輩出しているグローバルサウスの国々の事情、そして彼（女）らの移動先であるグローバルノースの国々の移民・難民政策や国際機関による取り組みも対象にしています。

経済的な機会を求めて国境を越えて移動する移民、紛争などを理由に国外への避難を強いられる難民は、現代の国際社会における不平等を象徴する存在です。彼（女）らが出身国から移動する／せざるを得ない背景には、貧困や紛争、権威主義体制、環境破壊など、さまざまな問題が関わっています。移民や難民は、移動先の国々において差別や排斥の対象となることもあります。他方で、移民やディアスポラは送金を通じて出身国に残る家族を支えると同時に、経済発展に果たす役割を期待されている存在でもあります。安全な場所で良い生活を送ることは、誰もが望むことですが、それが生まれた場所でも、移動した先でも得られない人びとがいるのはなぜでしょうか。このような人びとを減らすために、どのようなことが考えられるでしょうか。

本ゼミを通じて、現代の国際社会に存在する不平等の問題について深く考え、原因を究明し、解決策を模索する力を養ってほしいと思います。



マラウイから南アフリカへ行く国際旅客バスのチケット売り場



携帯電話を利用した送金サービスのエージェント（マラウイ）



マラウイの難民キャンプ

卒論

おススメの本

- 墓田桂・杉木明子・池田丈佑・小澤藍編『難民・強制移動研究のフロンティア』
- 児玉由佳編『アフリカ女性の国際移動』
- クラウス・ブリンクボイマー『出口のない夢——アフリカ難民のオデュッセイア』